

‘紅まどonna’で問題となる病害虫(ミカンハダニ)

ミカンハダニはかんきつの主要害虫であるが、特に‘紅まどonna’では多発している園地が多い。ここでは本種による被害と防除のポイントを紹介する。

被害の特徴



吸汁痕がかすり状になり、激しい場合は全体が白っぽくなる。この様な葉は冬季に落葉しやすい。



写真3 新被害果(8月1日)

果実も激しく加害されると、全体が白っぽくなる。



マメ科等の雑草が多い園で多い傾向
ミカンキロアザミワムによる類似の症状もある

写真2 カンザワハダニ被害葉

本種によく似たカンザワハダニの被害では、葉裏(春葉)から加害され、その部分が黄色くなる。



少被害果 多被害果

写真4 夏季の被害程度と着色状況

夏季の激しい果実加害(写真3)で、着色が悪くなる傾向が見られた。

防除のポイント

1. 主な発生時期: 6~8月、9~11月
2. 早期多発樹で雌成虫3頭/葉以内を目安に防除を行う。
3. 本種に効果の高い薬剤が少なくなりつつあるので、マシン油乳剤(冬季・夏季)を有効に利用する。
4. 有効薬剤
 - ・スターマイトフロアブル(3000倍)
 - ・ダニエモンフロアブル(4000倍)
 - ・ダニサラバフロアブル(2000倍)

・被害は発生とともに蓄積されていく。

・多発してからでは十分な効果が得られにくい。

→増殖初期の
低密度時に防除

